

畑作・酪農・受託栽培など経営の多様化によるリスク分散 ～ 辻本農場 ～

経営体の概要

事業実施前：平成18年

基幹作物：畑作物、牧草、乳牛

経営面積：45ha

飼養頭数：育成牛125頭



事業実施後：平成30年

基幹作物：畑作物、牧草、乳牛

経営面積：80ha

飼養頭数：育成牛170頭

取組の経緯と経営転換のポイント等

事業実施前は、排水不良で牧草しか作付できないほ場が多かったが、国営事業により洪水被害の解消、排水改良が図られたことで、平成21年頃から畑作物の作付が容易となり、畑作と酪農の複合経営が確立している。畑作部門では、デントコーンの受託栽培、酪農部門では、地域内酪農家と連携した育成牛の受託飼養によって、収入の多様化による経営リスクを分散している。

営農改善のポイント

①担い手の育成・確保

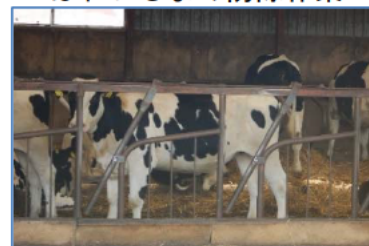
10年前に娘夫婦が担い手として就農するのと併行して、排水改良が進められたことによって、農地取得による規模拡大、畑作物の作付拡大、デントコーンの受託栽培などの畑作部門を拡充したことにより、畑作・酪農の複合経営による経営の安定・向上を実現している。



ばれいしょの防除作業

②流通・販売の工夫

酪農部門は、地域内酪農家の規模拡大に伴う育成牛の飼養管理労力の不足による預託飼育の要望を受けて、育成牛販売と受託飼育を併用する飼養形態へ移行している。現在は、4農家から約100頭を受託することで、収入が安定するとともに、搾乳農家の規模拡大、省力化に貢献するなど、地域内連携を構築している。



飼育中の育成牛

③省力化の取り組み

農業機械の大型化、農作業の省力化を進めるとともに、GPSガイダンス＋自動操舵システムを導入することで、ほ場条件の熟知や作業熟練度の低い従事者でも効率的な作業を実現している。また、家族労働力の増加や省力化によって、デントコーンの受託栽培（約10ha）に取り組むなど、収入の多様化、安定化を図っている。



GPSガイダンス＋自動操舵システムが装備されたトラクター

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：北海道河東郡士幌町及び上士幌町

受益面積：1,761ha

事業期間：平成19年度～平成24年度

事業目的：排水改良

主要工事：排水路1条6.5km

位置図（北海道）



上音更地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部

農業振興課 調整係

電話：011-709-2311

（内線5684）

（平成30年度調査時点）